

タイトル:平成 29(2017)年度 教育セミナー(第 13 回)

日時:2017 年 9 月 14 日(木)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

岩元 恕文(九州大学大学院人文科学府歴史空間論専攻)

中東☆イスラーム教育セミナーは、指導教官や先輩方からの勧めにより以前から興味を持っていました。実際にセミナーに参加してみると、受講生や先生方の発表を聞き、それをもとにして考え、ディスカッションを繰り返し、休み時間もお互いの情報を交換し続けるという濃密な時間に圧倒されっぱなしでした。セミナー期間はあっという間に過ぎ、普段自分があまり触れることのない分野の研究についての話をたくさん聞くことができ、大変有意義な時間になりました。

セミナーに参加するまでは、自分の専攻する学問の方法論や分析のやりかたについて特別に意識をすることはあまりありませんでした。しかし、受講生や先生方の歴史学、文化人類学、政治学、音楽、地域研究についての様々な発表を聞いていく中で、いろいろな学問の方法論についてより学んでいく必要があることを実感しました。また、質疑応答の時間では、受講生や講師の先生方の発表への質問やアドバイスから、研究を行う上での史料やデータ、各種用語を用いる上でどのようなことについて気を付けるべきかについて学ぶことができました。それだけではなく、受講生の皆さんが、発表の内容に対して前提となる論理や発表の構造について質問しているのを見たことは、ディスカッションの進め方について多くの新しい発見を私に与えてくれました。セミナー期間を通じて私は、自分の専門とその研究法、そして専門外の分野やそれらの分野における方法論について、自習する時間をこれからは意識的に作っていかうと強く思うようになりました。

セミナーに参加していた先生方の発表では、普段の生活では中々目にするような分野の話聞くことができ、それだけでも大きな刺激となりました。また、先生方がどのように調査対象と向き合い、どんな方法や史料を用いて調査を行っているのかを参考にすることができました。更に、先生方が研究をする過程で悪戦苦闘した経験を聞いたことは、困難に向き合った際にどうやってそれを乗り越えるかについて学ぶ上で大きな意味がありました。先生方の経験をロールモデルとしてどのように、自分の研究人生に生かしていくかということは、セミナー終了後のこれからも考え続けていかなくてはならないことになると感じています。

最後に、これほど充実した学びの場を設けてくださったすべての方々、本当にありがとうございました。次回は、ぜひセミナーで発表をできるようになっておきたいと思います。